



特集

国際交流推進センター始動!!  
留学報告、留学生紹介

教育紹介

「障がい者就労支援コーディネーター」を養成

研究紹介

「枯渇資源リンを下水から回収する  
～佐賀大学発の新しい回収技術～」

トピックス

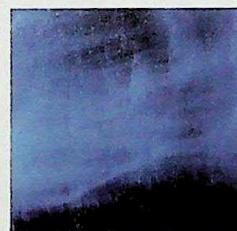
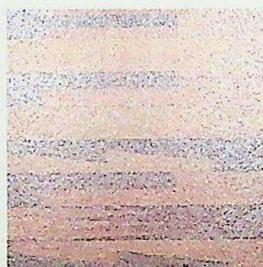
「図書館の蔵書は大学の魅力」  
「第95回佐賀美術協会展で  
美術協会賞をW受賞!」

イキイキ佐大生

学長賞受賞者の表彰

サークル紹介

Etc



# 国際交流推進センター始動!!

平成23年10月1日、国際交流推進センターが佐賀大学に設置されました。同センターは、留学生センターを発展解消させ、企画推進、学術研究の交流、学生交流、地域と連携した国際交流の4つの組織からなり、センター長に副学長を配し、新たに3名のコーディネーターを導入しています。これまでの草の根の国際交流を大学として組織的に支援するとともに、国際教育プログラムの拡充、研究者の受入れや本学の学生・研究者の海外派遣の拡大など、国際交流の新しい潮流を創り出し、大学の国際化の進展に努めます。

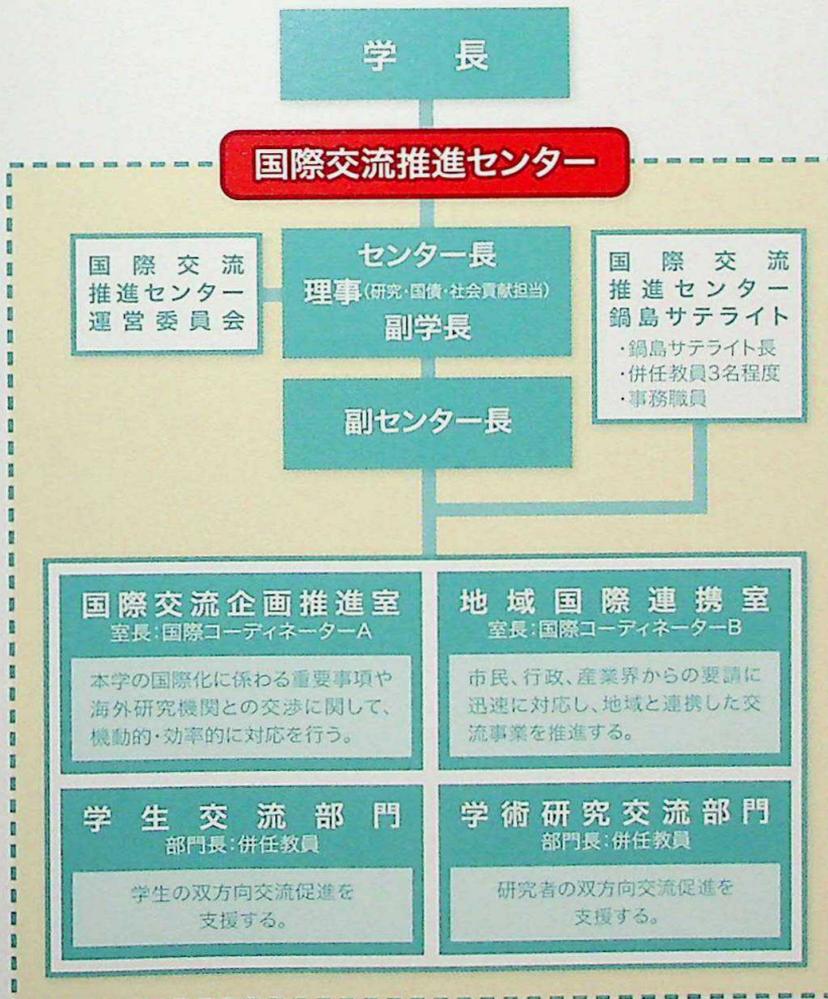
## 留学へのチャレンジを支援

「何故海外の人達との交流が重要になるのでしょうか？」

海外から日本を見る立場に立つことで、日本がそして世界がまったく違ったものに見えてきます。海外での生活というこれまでの価値観をひっくり返すような強烈な体験によって、あなたの中にある潜在的な能力が開花するチャンスが訪れます。海外留学を体験した多くの日本人が、留学を契機に新しい道を開くなど、このことを実証しています。佐賀大学出身者にも欧米のトップクラスの大学へ留学した先輩がいます。特に英語を身に付ければ、世界を舞台に活動する有力な武器となつて、あなたの学問や研究の世界、さらには実世界を、何倍も、あるいは何十倍も豊かに広げ

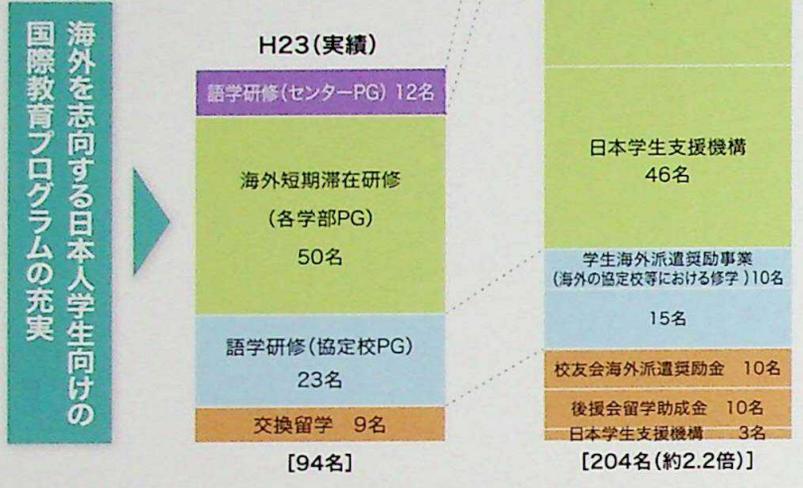


国際交流推進センター除幕式



ほかに  
お 尾  
か 一  
の 則  
国際交流推進センター  
副センター長

佐賀大学学生の海外留学倍増計画



海外を志向する日本人学生向けの国際教育プログラムの充実

ることになるでしょう。「冒険」は若者の特権です。佐賀大学をステップに海外の大学への留学にチャレンジしてみませんか。最近では地方大学、地元大学への進学希望が別の価値軸として浮上しています。しかし、それが子供たちの「チャレンジ」する意欲を萎縮させることに繋がるとしたら問題です。「外国から学ぶものはない。日本ですべてのものが手に入る時代になった」という識者の論調がマスコミにも流れ

若い大学生や高校生に影響を与えていることが心配です。いつの時代にも、若者は海外に夢を見、「冒険」と「チャレンジ」に心を奮い立たせてきました。21世紀の真只中を生き抜かなければならない若者には、これまで以上に国際交流が当たり前となり、海外の国や企業や人との国際競争が厳しくなる環境が待ち受けています。「冒険」と「チャレンジ」の精神が旺盛な時期に海外での生活を体験させることが、21世紀を生き抜く財産になります。

佐賀大学は地方にある大学ですが、国際交流に関しては中央にある大学に引けを取りません。現在では地方大学から直接世界の大学と交流することが可能な時代です。3年前に訪問したアメリカの小都市RENOの街中で、「RENOは世界一小さな大都市を目指す」という標語を見つけた時、佐賀大学が目指す方向や心意気と重なり感動を覚えました。佐賀大学は日本でも有数の田園地帯にある地方の大学ですが、それによって国際大学になる条件を失うわけではありません。国際大学の資格とは世界基準の教育の質に関係しています。佐賀大学には現在300名近い留学生が在籍しており、この数は九州の国立大学法人の中で3指にはいり、大学の規模(学生数)を比較するとトップ

「のどかなのに国際派」をめざす佐賀大学

さらに、今年から佐賀大生を海外の大学へ派遣するため本格的なプログラムの取り組みを開始します。留学生の受け入れの継続と佐賀大生の海外留学・派遣を本格化するため、佐賀大学は特定の海外の大学を重点交流大学と認定し、重点的に教育・研究交流を展開していきます。海外の優秀な大学との実質的交流によって、佐賀大学は世界基準の教育の質を築き上げ、真の国際大学になることを目指しています。



多くの学生でにぎわう留学フェアの様子



留学体験者との個別相談会

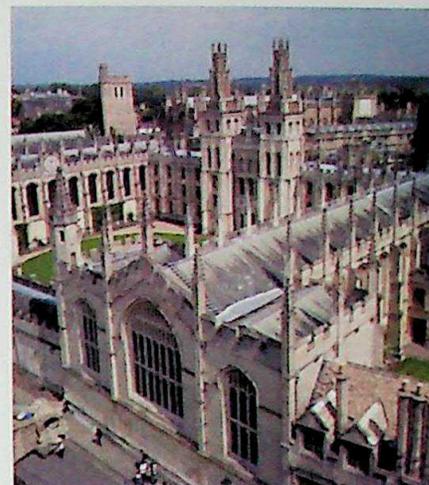
# 国際舞台で「闘う」強さを得る

佐賀大学卒業後、文部科学省より奨学金を得て英国オックスフォード大学大学院へ進(留)学し、今年で5年目を迎え現在博士論文の執筆中です。留学生生活を振り返るにあたり、「自律的学習」「発言力」「チャレンジ精神」がキーワードとして挙げられます。

「長期留学＝語学堪能・目標達成」の方程式を成立させるには、留学前及び留学中のプラスαの学習

が鍵となります。特に、周りの学習資源を有効に使い、表現力や発言力の向上に努めることが重要です。学位留学の場合、口頭発表や課題論文執筆、さらに指導教官との個人・少人数指導など、発言・表現は密に要され、学業評価に影響するためです。

留学中は、新しい事の連続で胸が躍る一方、言語や文化の違いから失敗や苦労を経験することも少なくありません。そこで、それらの経験を学習と捉え、次の機会でもより良い力を発揮しようと意気込むチャレンジ精神が必要です。留学先の国際的な舞台で、そのような闘う姿勢を持てるか否かで目標達成度が大きく異なると考えます。



オックスフォードの街並



MSC(修士号)学位授与式前の祝典



はやし 林 裕子

文化教育学部学校教育課程  
平成18年度卒業

## 留 学 報 告

# 「韓国語・韓国文化特別体験プログラム」に参加して

私は今年の春、10日間の「韓国語・韓国文化特別体験プログラム」に参加し、協定校である大邱大学に行きました。そして、大学の寮に下宿し、韓国語の授業を受けたり、茶道やテコンドー体験などを行いました。沢山行った行事の中で1番印象に残ったのは、大邱大学の学生の方達と実際に交流し、市内を案内してもらったことです。沢山のお話がありましたし、良い思い出ができました。さらに、実際に韓国で過ご



韓服体験

すことで、日本と違うところを発見できたりなど、肌で実際に文化を感じるといふ非常に貴重な体験をする

ことができました。

以前旅行した時から韓国のことに興味を持っていましたが、このプログラム体験を通して韓国についての知識を深めることができました。本当に充実した10日間でした。このプログラムで得た経験はきっと将来に役に立つと思います。今年の7月には3週間の韓国のサマースクールにも参加するので、より多くの事を学びたいと思っています。



テコンドー体験



やました くみ 山下 久美

農学部生命機能科学科4年

留 学 生 紹 介

# 佐賀大学に留学、そして 留学生会長として思うこと

私は、小さい頃から母国であるモンゴルを出て、海外に留学したいと思っていました。日本に来たのは姉の影響でした。姉が日本の大学で交換留学をしていて、日本はいいところなので、ここで留学したらと勧めてくれたのです。



モンゴルの家族とともに

15歳の時、日本にきました。日本には一人で来たのでわからないことや驚くこと、困ることが多々ありました。まして日本語もできなかったのです。最初の頃は身振り、手振りしかコミュニケーションを取ることができなかったです。通訳の人もいないので、相手が言っていることを理解するために、または自分が相手にものを伝えるために必死だったので、その環境が日本語を学ぶのに役立ったと思います。日本人はとても親切な人達で、何か困ったときにすぐ声をかけてくれたので、本当に心から温かく感じました。

高校3年になり、日本の国立大学に進学しようと思って色々調べてみました。私は日本人ではないので、留学生試験で受験できるだろうと期待していましたが、調べてみたら、驚き極まりないことを言われた

のです。「あなたは日本の高校を卒業しているので留学生試験で受験できない、でも日本人と同じセンター試験であればできます」とのことでした。それを聞いて、私はあまりにもショックで日本での進学を諦めようと思いましたが、回りの人達の支えもあり、高校の最後の1年間を受験勉強に没頭し、運よく佐賀大学に合格することができました。

佐賀大学に来て本当に良かったです。環境が良くて、日本人以外に他の国から来ている留学生もたくさんいるので、その人達と関わることで勉強以外にもいろいろなことが学べます。それはとても大事なことだと思います。そのおかげで、私も自立し、少しですがものをいろんな面から見るできるようになった気がします。



新入留学生歓迎会の様子

私は、今年4月から佐賀大学留学生会長をやらせていただいています。佐賀大学に留学している約280人ほどの留学生の代表としての最初の大きなイベントは新留学生歓迎会でした。毎年約60人の新留学生が佐賀大学に入学されています。この中には日本語学校を卒業してから入学する人もいれば、短期間(SPACE Program)で本国の大学から交換でこられる人もいる



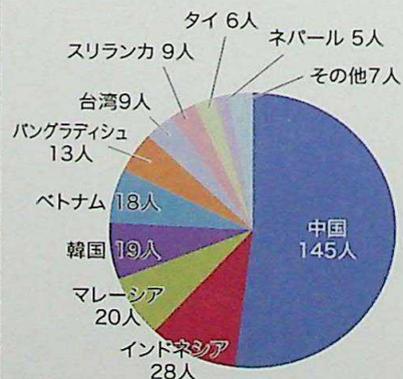
プレブドルジ・バーサン  
経済学部経済システム課程3年  
佐賀大学留学生会長

ので、それらの新入生の状況を踏まえながら、みなさんが楽しく参加できるように考えて開催しました。

私は、留学生会長の仕事のひとつとして、佐賀大学の留学生コミュニティの開設を計画しています。コミュニティを通じて、先輩方の就職活動での経験を後輩たちへアドバイスしたり、留学生同士で活動する時に連絡を取り合ったり、また迅速かつ正確な掲示板として使ってもらおうのです。このコミュニティは最初は佐賀大学だけで作りますが、うまくいけば、日本全国にいる留学生たちのコミュニティも考えています。やるのがたくさんあるので忙しい日々ですが、やり甲斐を感じられるものばかりで、楽しく元気を出してやりたいと思います。

## 海外からの外国人留学生

外国人留学生の受入は、年々増加し、現在17カ国279名の留学生が在籍しています。留学生との交流イベント等も企画され、様々な国の学生とのコミュニケーションを通じて国際感覚が養われます。



平成24年5月1日現在

# 「障がい者就労支援コーディネーター」を養成 共生社会で働く一員としての自覚と技能の獲得に向けて



お夫 川 悦  
ほり 堀 医学部教授



ふみ 井 将 文  
い 井 全学教育機構生命科学部門  
特任准教授



ひろ 福 嶋 利 浩  
ふ 福 全学教育機構生命科学部門  
特任助教

平成22年4月より佐賀大学では、障がいを持たれた方の働く意欲や動機づけを高め、キャリアアップやQOL(生活の質)の向上を支援する「障がい者就労支援コーディネーター」養成のための教育プログラムをスタートしました。この教育プログラムでは、次代を担う学生へ就労支援の理念や効果を教授し、共生社会構築の原動力となる「人材」の育成を行います。

わが国の大学には、障がいを持たれた方の就労支援を主テーマとする学部や学科はなく、このプログラムは佐賀大学が全国に先駆けて行うものです。現在の教育スタッフは、医学部堀川悦夫教授、全学教育機構井手将文特任准教授、同福岡利浩特任助教の3名です。

就労支援という堅苦しい印象を持たれるかもしれませんが、障がいを持たれた方のために特別なことを行うというよりは、共生社会で働く一員として如何に相手の視点に立って一緒に考え行動できるかが重要になります。よく考えてみると、このことは障がいのあるなしに関係なく、全ての人間に当てはまることです。勿論、障がいに対する知識や支援に関するスキルの獲得が大切ではありませんが、多くの障がい当事者と意見交換をしながら、職業生活を送る一人の人間としてその視点や考え方を理解して行くことが重要です。そのため、頸髄損傷、脊髄損傷、脳性まひ等の重度障がいを持たれる方々を講師として直接に講義を受けますし、授業の中にゲストとして難病患者の方々、全盲の方、神経

疾患の方等にも参加頂き、意見交換や体験共有をしながらその方々の生活方法や支援のニーズを理解していきます。本教育プログラムの受講対象は全学部の学生で、開講科目は主題科目8単位の(4科目)と障がい者就労支援コーディネーター教育科目8単位(4科目)です。本プログラムを修了した学生には、佐賀大学認定「障がい者就労支援コーディネーター養成プログラム」の修了証を交付します。

本教育プログラムを修了した皆さんは、他の学生と一味違う「障がい者就労支援」の知識・スキルを有することになり、就職の際には、この知識・スキルを活かし、障がいを持たれた方とともに自分自身のキャリアアップに繋がる事が期待されます。



電動車いすの方がインストラクターとなるテレビゲームの操作体験授業(テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論)

区分	科目名	校時	内容
主題科目	障がい者就労支援の諸理論	前期 集中	障害者福祉、雇用管理、教育関連の制度など、障がいを持たれた方の就労支援に関する諸理論を学びます。
	各種支援におけるカウンセリングの基礎と応用	後期 水1	職業カウンセリング、職業相談、各種検査法などの基礎と応用について学びます。
	高齢者や障害者への生活・就労支援概論	前期 水2	高齢の方や障がいを持たれた方の自立実現のための総合的・学際的な支援の理論と実践法を学びます。
教育科目	テクニカルエイド・コミュニケーションエイド概論	後期 水2	リハビリテーション工学の基本理論を概説し、テクニカルエイドやコミュニケーションエイドについて学びます。
	障がい特性と職業適性	前期 水6	障がいの特性(身体、知的、精神、高次脳機能障害など)に関する職業問題や職業特性などについて学びます。
	就労支援実践と社会的諸制度	後期 水6	就労支援を実践するにあたっての就労先での業務内容や社会的諸制度との関わりなどについて学びます。
	医療的ケアを必要とする障がい者の就労支援	前期 木1	障がいへの医学的アプローチの基本理念を理解し、継続して医療的ケアが必要な障がい者の就労支援法を学びます。
	職業適応促進と事例研究	後期 開講	障がいを持たれた方の職業適応を促進するための支援法などを学び、事例研究を行います。

開講科目一覧

# 枯渇資源リンを 下水から回収する

～佐賀大学発の新しい回収技術～



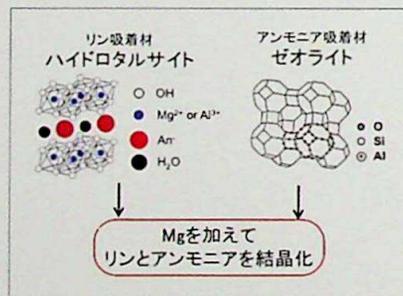
あら き ひろ ゆき  
荒木 宏之  
低平地沿岸海域研究センター教授

リンは生物に必要不可欠な元素です。人間は石油がなくても生きていけますがリンがなくては生きていけません。骨の形成に必要というだけではなく、DNAやATPの必須構成元素であり、生物の代謝で重要な役割を果たしているのです。私たちは食べ物を通してリンを体内に取り込んでいます。肥料として与えたリンで米や野菜が育ちますし、牛や豚も肥料をやった作った飼料を食べて育ちますので、リンは食糧生産、つまり人類の生存に不可欠なものなのです。このリンがあと40年で枯渇すると言われています。

そのようなリンはわが国では産出されず100%輸入されています。主な用途は肥料です。人間が食べ物として取り込んで利用しなかったリンは排泄物として下水道に集まります。その量はわが国でリサイクル可能なリンの24%（リン鉱石や肥料としての輸入量の14%に相当）になりますので、これを回収せずに海に捨てているのは勿体ないと言えます。

下水からリンを回収するためには、低濃度で存在するリンを効率的に集める必要があります。そこで、鉱物の一種であるハイドロタルサイト（HT）とゼオライト（Ze）という吸着材料を使い、HTにリン

を、Zeにアンモニアを吸着させた後、脱着再生液の入った別のタンクでリンとアンモニアを取り出しマグネシウムを加えてリン酸マグネシウムアンモニウム（MAP）の結晶として回収します。MAP自体が直接肥料にもなりますし、リン鉱石に代わる原料にもなります。リンとアンモニアを取り出したHTとZeは再生して繰り返し吸着に利用できます。この方法により下水中に存在するリンの90%程度を回収することができます。



HTとZeの構造とリン回収の原理



リン酸マグネシウムアンモニウム（MAP）の結晶

この新しい技術は大学から特許が出願されました。現在、佐賀の二つの企業（日本建設技術（株）、

（株）戸上電機製作所）と実用化に向けて共同研究を進めています。わが国の資源問題解決の一助になればと思っています。



佐賀市諸富町の下水処理場での実用化実験の様子。HTとZeが入っているそれぞれのタンクに下水を通してリンとアンモニアを吸着させる。



共同発明者の三島悠一郎センター研究員と共に。

# 図書館の蔵書は大学の魅力



いなおか 稀岡 つかさ 司

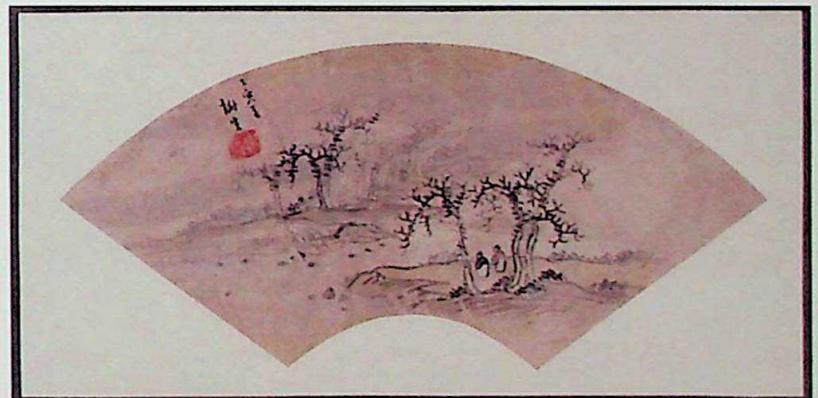
附属図書館長

佐賀県は九州の北西部に位置しており、福岡県、長崎県と隣接しています。この地域は古来、大陸文化の窓口として歴史的、文化的に重要な役割を果たしてきました。佐賀市は江戸時代には長崎街道の宿場があり、佐賀藩の城下町として栄えました。佐賀城の北と南の位置に佐賀大学のキャンパスがあります。

佐賀大学は、二つのキャンパスにそれぞれ附属図書館があり、本庄キャンパスにある本館には約60万冊、鍋島キャンパスにある医学分館には約11万冊が納められています。全ての本が教育研究のために大事ですので、教員や学生等が1冊でも多く、すぐに利用できるよ

うにしておきたいというのが念願でしたが、平成23年度に附属図書館本館2階書庫に移動式の集密書架(7万冊蔵)が設置され、約1万冊を新たに配架することができました。「西蔵大蔵経(ちべつ)とだいぞうきょう」や「国史大系」など哲学、歴史分野を中心に貴重な学術図書が真新しい書架に並んでいます。

また貴重資料として、小城鍋島藩の藩主の家に代々伝えられた和漢の古典籍および歴史史料を中心とした総数約1万点に及ぶコレクション「小城鍋島文庫」や故市場直次郎氏が蒐集した江戸時代後半から明治以降にかけての文人の書画類(扇面、掛軸、短冊など)及び和書類(大津絵類、

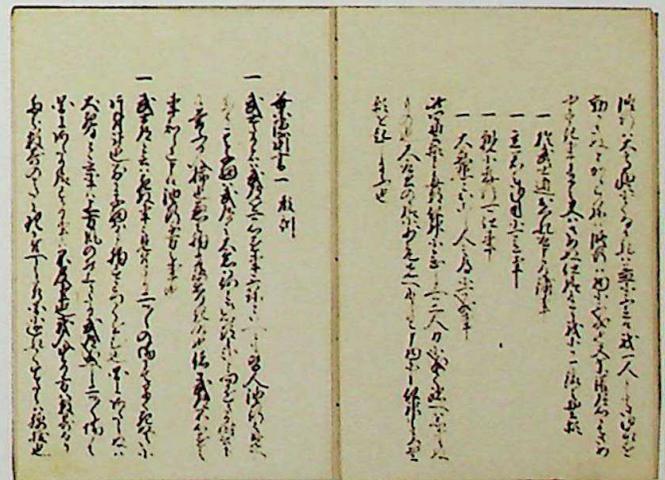


市場直次郎コレクション「水辺樹林図」与謝蕪村(1716-1783)

## 蔵書数(平成24年3月31日現在)

本館 (冊)			
区分	和漢書	洋書	計
総記	34,231	46,857	81,088
哲学	19,859	8,441	28,300
歴史	40,041	6,024	46,065
社会科学	121,151	36,271	157,422
自然科学	69,326	40,935	110,261
工学	39,333	6,748	46,081
産業	28,236	4,397	32,633
芸術	19,613	2,823	22,436
語学	15,251	8,319	23,570
文学	34,174	14,576	48,750
計	421,215	175,391	596,606

医学分館 (冊)			
区分	和漢書	洋書	計
専門教育関係	39,916	33,978	73,894
一般教育関係	26,511	11,422	37,933
計	66,427	45,400	111,827



小城鍋島文庫「葉隠」より「武士道と云ふは、死ぬ事と見付けたり」の頁

# 第95回佐賀美術協会展で 美術協会賞をW受賞!

第95回佐賀美術協会展(佐賀美術協会主催)の1席にあたる美術協会賞を佐賀大学の学生が受賞しました。日本画部門で富安真璃子さんの作品「玄関」、彫塑部門では川原恵吏佳さんの作品「若い馬と悲壮な決意を持った調教師」です。

この展覧会は1914年から続く歴史あるもので、一般公募の部は「若手の登竜門」となっています。

## 日本画



とみ やす まり こ  
富安 真璃子

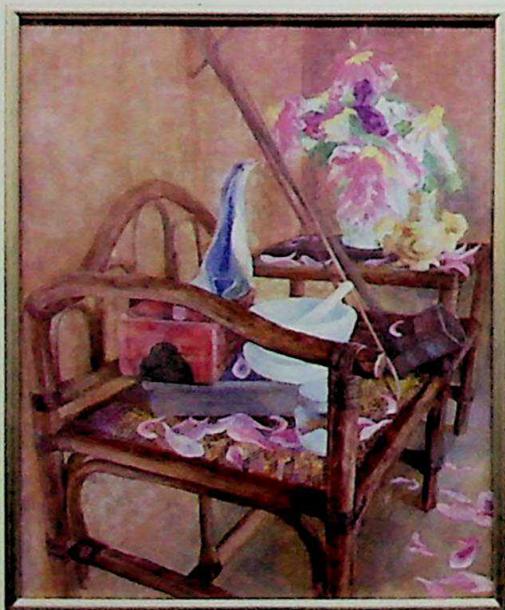
文化教育学部美術・工芸課程4年

今回は、美術協会賞を受賞できて、とても驚きましたが、うれしい気持ちでいっぱいです。

この「玄関」という作品は、実際に自宅の玄関にある風景で、毎日目にするものだからこそ、細かいところまで描けるのではないかと思い、今回、モチーフに選びました。

こだわったところは、藤椅子のなめらかな形状や少し年季が入ったような質感を表現したところ。また全体的にくすんだ茶色のトーンでまとめて、素朴だけど温かみのあるような雰囲気を出せるよう意識しました。

私が日本画を始めたのは大学に入ってからで、まだまだ勉強すべきことがたくさんあります。これからも周りの先生方や学生のみなさんから色々なものを吸収して、制作に励みたいと思います。



「玄関」

## 彫塑



かわ はら えりか  
川原 恵吏佳

大学院教育学研究科教科教育専攻2年

私は現在、佐賀大学大学院教育学研究科の2年に在籍し、彫塑を学んでいます。私が佐賀美術協会展に出品したのは、学部2年次からでした。しかし、なかなか思うような結果が得られず、悔しい思いを何度もしました。そのたびに自分を奮い立たせ、次の同公募展に挑戦して参りました。そして、今回ようやく念願の美術協会賞を受賞することができ、大変うれしく思っております。この作品は、「若い馬と悲壮な決意を持った調教師」という現代の師弟関係を皮肉ったものです。馬が人へ、人が馬へ変容しており、気持ちの交差する様を感じとっていただけたらと思います。

今回の事に満足せず、さらに研究を重ね、いい作品がつかれるように頑張りたいと思います。



「若い馬と悲壮な決意を持った調教師」

# 佐賀県海外使節団

～佐大生 世界のパイオニアと出会う～

**平** 成24年3月5日から18日まで  
の2週間、私たちは「佐賀県海  
外使節団」の2期生として渡米しま  
した。

「佐賀県海外使節団」とは、佐賀県  
が、これからの佐賀県、日本を担う国  
際的な人材を育成するプログラムと  
してアメリカ西海岸に大学生6名程

度を2週間派遣するものです。今回は  
佐賀大学から3名が参加し、サンフ  
ランシスコやロサンゼルスのような業  
界で活躍するパイオニア達を訪問し、  
企業家精神を学びました。企業家精  
神とは企業家を目指す者だけではなく、  
人のため、日本のため、世界のた  
めに何かをやりたいと志しているす



シリコンバレーにて「Google本社」を訪問

べての人がもつべき心です。

心も視野も、グッと広がる使節団  
へ、佐賀大学の学生のみなさんも参  
加されてみませんか。

2週間という長いようで短い時間を、かけがえのない仲間とともに過ごせま  
した。また、どの研修先で学習させていただいたことも何一つ無駄はなく、私  
の知へと結びつきました。

いわゆる「成功者」と語られる方々は自分を高めることに関して余念がない  
ことは、全体を通して特に印象深かったです。また、彼らの根底には諦めない  
心が根強く存在していると感じました。今回の学びを生かし、成長しつづける  
私でありたいと思います。



くろき たかこ  
**黒木 崇子**  
医学部医学科5年

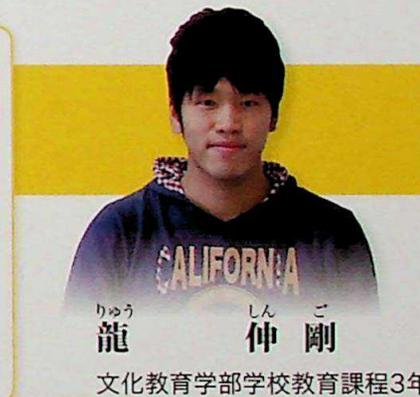


くさば かな  
**草場 香那**  
医学部医学科5年

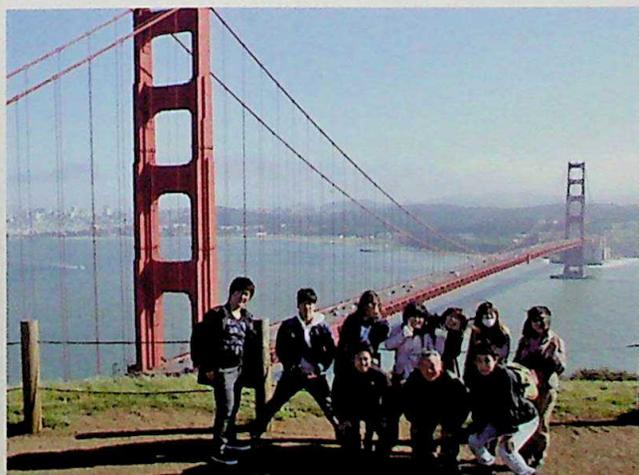
待っていても何も変わらない、それを教えてくれたのが佐賀県海外使節団でし  
た。渡米先で出会った方々のお話は、医学以外の自分の分野とは異なる分野も  
多々ありました。しかしこれを自分とは関係ない、と一蹴するのではなく、新しい視  
点や意見を聞くことで私の人生の糧となり、夢を紡いでいくのだと感じました。今、  
自分が生きている世界から外へ出れば、必ず人それぞれ何か掴めるはずで

研修中は、何もかもが新しいものばかりで、多くの視点を獲得することがで  
き、今までの人生の中で一番濃密な時間を過ごせました。特に、ロサンゼルス  
の高校では三味線を使って日本文化の授業をし、教育系の私にとってとても  
貴重な経験となりました。

また、多くの在米日本人や日系アメリカ人の方とお会いして、今後世界の中  
で日本はどうやって生き残っていくのかということに改めて実感しました。こ  
の経験を糧に、私はこれから教育を通じて日本、世界のために貢献できる人  
間になりたいと思います。



りゅう じんご  
**龍 伸剛**  
文化教育学部学校教育課程3年



▲ロサンゼルスにて 日本総領事館を表敬訪問

◀サンフランシスコ ゴールデンゲートブリッジを背景に



# さがん東北応援チーム『ropE,』

～「思い」を「形」に、繋げるロープ～



さともと ひろのり  
里本 裕規

大学院農学研究科  
生物資源科学専攻修士課程1年

**さ**がん東北応援チームropE, 代表の里本裕規です。私は、昨年3月11日の東日本大震災の現状をテレビで見て「何かしたい」とは思いつつも、何もできない毎日を過ごしてきました。しかし今年に入って、「本当にこれでいいのか？」という疑問から、4月上旬に被災地を訪問してきました。帰ってきてからは被災地のために何もできない自分の力の無さや、被災地と佐賀のギャップに悩まされる日々が続きました。被災地で必死に生きている人たちがいる一方で、平和な佐賀で時間を浪費してしまっている、何かしたいけど動き出せない学生がいる、そんな現状が目の前にありました。



津波の爪痕

それを改善したい、佐賀の若者の力で小さなことでも続けていけば、被災地のためになるはず、そんな思いを形にするため、もう一人のメンバーである副代表岩橋弘典を誘い、このチームを立ち上げました。チーム名は、被災地のために何かやりたいけど一歩が踏み出せない人を引っ張り上げる「縄」(ロープ)になりたいという思いから名付けました。

最初の活動として、6月末に「First step」と題したイベントを佐賀大学にて開催しました。内容は、被災地でのボランティア経験のある学生をゲストとしてお呼びし、被災地の「リアル」を伝える報告会

や、「佐賀にいる私たちにできること」をテーマに、参加者の意見を共有できる場を提供しました。「佐賀大学で東北応援というテーマで話し合いが行われたことに意義がある」、「忘れないことが大切だと思う



プレワールドカフェ

ので、このようなイベントをコツコツしてもらいたい」などのご意見をいただき、このような佐賀の学生に

被災地に対する興味を持ってもらうための活動を今後も行っていききたいと思います。

現在チームのメンバーが4人と少ない状況ですが、被災地のために何かしたい、そんな学生と一緒にチームを組織して、活動をしていきたいと思っています。興味のある方は是非ご連絡ください。



First step イベント風景

陸前高田の体育館にて

# 学長賞受賞者の表彰



学長賞授与式（在校生）

佐賀大学では、学術研究や文化活動、スポーツなどで活躍した学生及び学生団体を表彰しています。第12回目となる平成23年度は、卒業・修了生7名、在校生9名と2団体が、佛淵孝夫学長から表彰を受けました。

\*学年は受賞当時のものです



医学系研究科/博士課程3年

なかの りょう  
**中野 良**

第7回日本消化管学会ワークショップにおいて発表者に選出され、今後の臨床应用到有用であると高い評価を得た。



医学系研究科/平成22年度 修了

こじま なみえ  
**小島 菜実絵**  
(野本)

第7回日本消化管学会ワークショップにおいて、発表者に選出され、高い評価を得た。



医学系研究科/博士課程2年

わたなべ あきら  
**渡邊 聡**

第19回日本消化器関連学会週間のパネルディスカッションにおいて発表者に選出され、感謝状を贈呈された。



工学系研究科/平成23年度 修了

ほそき あきひろ  
**細木 秋裕**

The 19th International Conference on Computers in Education, ICCE 2011における研究発表がBest WIPP (Work-In-Progress-Poster) Award を受賞



医学系研究科/平成23年度 修了

にしお みどり  
**西尾 美登里**

モンゴルにおいて医療支援活動(口唇口蓋裂の診療)に従事し、国際貢献に寄与するとともに、佐賀県主催の医療通訳養成講座講師などのボランティアを行うなどの地域貢献活動を実施。



工学系研究科/平成23年度 修了

かわさき けんご  
**川崎 健吾**

2011 Microwave Workshops & Exhibition (MWE 2011) マイクロ波分野の特別表彰としてTakashi Ohira Prizeを受賞  
マイクロ波技術に関する全国規模のワークショップ(電子情報通信学会APMC国内委員会主催)設計コンテストの「2段増幅器」部門において最優秀賞を受賞



工学系研究科/博士課程2年

うしじま ゆう  
**牛嶋 優**

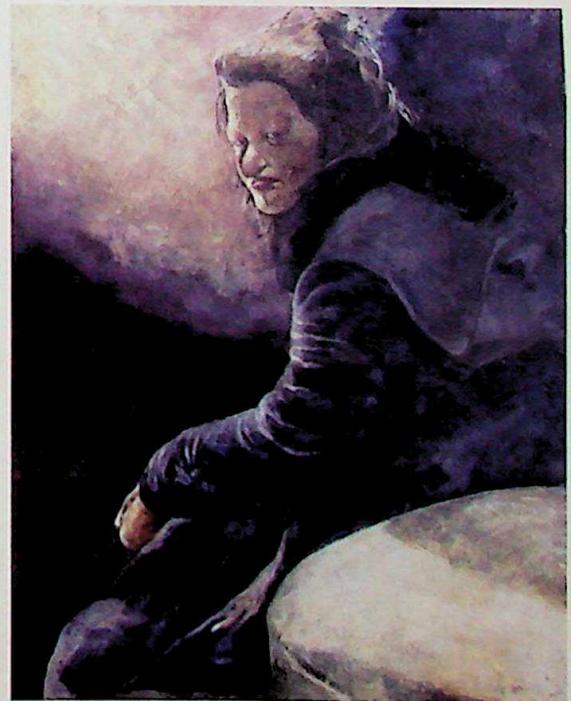
マイクロ波技術に関する全国規模のワークショップ(電子情報通信学会APMC国内委員会主催)設計コンテストの「2段増幅器」部門において優秀賞を受賞



文化教育学部/2年

うえだ みさと  
**上田 美里**

第11回佐藤太清賞  
公募美術展  
佐藤太清賞(大賞)



上田 美里「執気」



平藪 健「イチゴの大冒険」



学長賞授与式（卒業生）



文化教育学部／3年

ひら やぶ けん  
平藪 健

第35回九州青年美術公募展文部科学大臣賞  
(最高賞)



文化教育学部／1年

おたべ ゆりこ  
小田部 友里子

第33回全国国公立  
大学空手道選手権大会  
女子個人形の部優勝



文化教育学部／2年

はまかわ めい  
濱川 芽衣

第11回佐藤太清賞公  
募美術展 福知山市長  
賞(2席)



文化教育学部／平成23年度 卒業

いしかわ まい  
石川 真衣

第1回日本産科婦人科  
学会賞



文化教育学部／平成23年度 卒業

くろき こうへい  
黒木 晃平

プロサッカーリーグ(Jリーグ)の  
特別強化指定選手として公式戦  
に出場し、サガン鳥栖初となるJ  
1昇格に貢献し、佐賀大学の名を  
内外にアピールすることとなった。



工学系研究科／修士課程1年

おにし ともや  
大西 智也

マイクロ波技術に関する全国規模のワー  
クショップ(電子情報通信学会APMC国  
内委員会主催)設計コンテストの「1段増  
幅器」部門において最優秀賞を受賞



工学系研究科／平成23年度 修了

うえはら たつ ま  
上原 達摩

マイクロ波技術に関する全国規模のワー  
クショップ(電子情報通信学会APMC国  
内委員会主催)設計コンテストの「1段増  
幅器」部門において優秀賞を受賞



医学部／4年

くろき たかこ  
黒木 崇子

第1回マリンカップin沖縄大会  
女子の部優勝  
第1回マリンカップin沖縄大会  
フリップパー一般女子優勝  
2011年度日本マスターズ水泳短水路大会  
25m背泳ぎ第1位・50m背泳ぎ第2位



### 三島・田口研究室まちの間グループ

みやもと なおみ  
代表 宮本 尚美 他3名

学生自らが空き家を学生シェアハウスとして改修して住み  
込み地域活性化に取り組む一連の活動を主体的に行っ  
た。このまちの間グループの活動が、九州経済フォーラム  
地域活性化賞を受賞し、また、第3回佐賀の木・家・まちづ  
くり賞知事賞(内定)が決定し、活動内容が高く評価され、  
今後の展開が期待される。

### チャリさがさいせい

ひらやま かずき  
代表 平山 和希 他29名

第9回全国大学生環境活動コンテスト:環境大臣賞  
学内の放置自転車問題に取り組み、再生自転車のレンタサイクル活動を実施し市民の利便  
性に貢献すると共に循環型社会構築を訴える活動を展開している。

ヨット部(鍋島キャンパス)



部長  
なかむた そうし  
**中牟田 爽史**  
医学部医学科4年



こんにちは、佐賀大学医学部ヨット部です。

私たちは、現在6年生1名、4年生7名、2年生7名、1年生5名の計20名で活動しています。シーズンは3月末から10月末までです。場所は唐津市にある佐賀県ヨットハーバーというところで毎週土曜日に行っています。

ヨットは風を使って進むスポーツです。例外はありますが操作次第で風上にも、風下にも進むことができます。1年ほど練習すれば、誰でも海上を自由自在に動き回るようになります。

ヨットにはたくさんの種類がありますが、私たちが使っているのは470クラスと、スナイプクラスのヨットです。これらは2人乗りで比較的小型です。ヨットの試合は、海上に打ったマークを回るレース形式です。規定のコースをいかに早く走るかで勝敗が決まります。風や波の影響を考えながら走らなくてはならないのでとても頭を使います。

私たちは部活動以外にも、キャンプをしたり旅行に行ったり楽しく活動しています。興味がある人は是非とも試乗に来てください。部員を年中募集しています。



女子バスケットボール部(本庄キャンパス)



部長  
つる まる まい  
**鶴丸 真維**  
文化教育学部学校教育課程2年



こんにちは、女子バスケットボール部です。

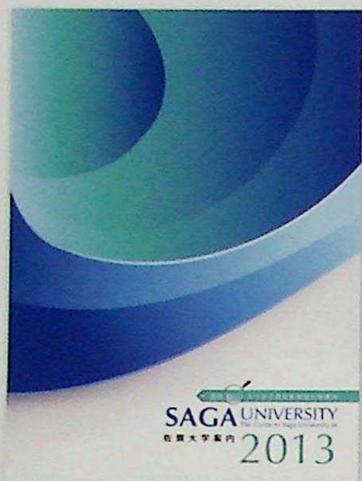
私たちは、火・木・土の週3日、プレーヤー12人、マネージャー2人の14人で活動しています。少人数ではありますが、皆とても仲が良くバスケットが大好きでとにかく元気がいい部員ばかりです。

以前は、プレーヤーが3人しかなくて、大会にも出場できないうえに練習もまともにできない状況が続き、休部しようと考えた時期がありました。しかし今では部員も増え、大会に出場することはもちろん、他の大学や高校生、社会人のチームと練習試合をしています。いろんな人たちのプレーを見たり、対戦することで自分たちに足りないところを発見したり、相手のいいところを学んだり良い刺激を受け、とても充実した活動ができるようになりました。時にぶつかりあい、時には競争してお互いに成長できるように日々精進しています。まだまだ部員を募集しています。少しでも興味がある方は、ぜひ見学または体験入部しに来てください。

これからも、「試合に勝つ!!」ということはもちろん「バスケット楽しい!!」、「バスケット大好き!!」という気持ちを忘れずに日々頑張りますので、「新生☆女子バスケットボール部」への温かい応援よろしくお願ひします!!



# スマホでみる 大学案内2013完成しました! 内容も大きくリニューアル!



表紙は大学カラーを  
基調としたデザイン

- ① 全国初! スマホでみる新感覚大学案内
  - 文字や写真では伝えきれない情報をAR技術(junaio)を使って高校生に伝えます
  - 動画で研究室やゼミなど、普段見ることの出来ない大学を学生が紹介します
- ② 読みごたえのある大学案内:九州の国立大学では一番のページ数!  
昨年度大学案内:全86ページ ⇒ 本年度大学案内:全155ページ
- ③ 高校生のニーズに応えたコンテンツ  
 本学新入生アンケート調査で知りたかった情報の1位は、「授業内容やゼミの内容」  
 そこで、学科・課程の詳細情報を徹底掲載!!  
 ●全ての募集単位別(5学部18学科・課程)のページを新設(各4ページ)
  - ・教育目標、カリキュラムの特徴
  - ・学生からのメッセージ
  - ・4年間で学ぶ授業、注目の授業を紹介
  - ・研究室や主な卒業論文テーマを掲載
  - ・進学、就職状況
- ④ 他大学とも比較ができるよう客観的なデータを充実化  
 入試情報:グラフで分かる実質倍率、推薦・AO入試の詳細実績など  
 通学環境:佐賀大生の通学状況と福岡からの通学(時間や費用など)  
 留学状況:日本から海外留学の実績  
 就職実績:求人状況、就職地域、詳しい就職先
- ⑤ その他  
 【最近の話題】では、J1リーガー黒木晃平選手を紹介  
 【卒業生からのメッセージ】には、谷田千里氏(株式会社タニタ社長)を掲載  
 【大学基本用語】には、大学案内を読むための基礎的な用語を掲載

大学案内(デジタルブック)

<http://www.sao.saga-u.ac.jp/daigakuannai2013/index.html>

学科・課程紹介の動画はこちら

<http://www.youtube.com/user/Sagadaigaku2011>

## 佐賀大学受験生向けサイト Facebookできました!

<http://www.facebook.com/sagau.study>

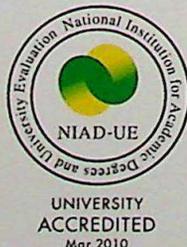


受験生のみなさんに向けて、  
佐賀大学の情報をリアルタイムに公開していきます。  
受験に関すること、研究に関すること、佐賀大学の学生に関すること、いろいろな情報を発信していきますので、みなさん、楽しみにしてください。

### 佐賀大学メールマガジン登録受付中!!

毎号、受験生へ向けて、OB・在学生からの熱いメッセージ掲載。

登録は、→ <http://www.saga-u.ac.jp/mailma/>



UNIVERSITY  
ACCREDITED  
Mar. 2010

### 編集後記

本号の特集は、新たに設立された「国際交流推進センター」の紹介です。センター長に副学長を配し、大学全体として国際交流を強力に押し進めるための組織です。本学は、小規模ながら、これまでも積極的に国際交流を行ってきました。本誌で紹介している林裕子さんは、5年間文部科学省の奨学金を得て、英国オックスフォード大学で博士号取得目前です。ただ、今後は、これまでのノウハウを生かしながら、組織として支援し、より多くの学生や教員の相互交流活動を活性化していきます。

先月、同センター主催で「留学フェア」を開催したところ、100名を超える学生が集まりました。「日本人若者の内向き志向」が指摘されている昨今、佐大生の留学への高いニーズはうれしい驚きでした。彼ら全員の希望が実現できるように支援することこそ、同センターの使命の重要な部分となるでしょう。同センターの実績は、今後も随時、広報していき、将来的には「留学したいなら、佐大へ」と宣伝できることになればと思っています。

(広報室長 早瀬 博範)

作品名 「バレリーナ～向かう～」

(第95回佐賀美術協会展にて鍋島報効会賞を受賞)

まえはら しんすけ

前原 慎介 (教育学研究科教科教育専攻美術教育専修1年 彫刻専攻)



【作者プロフィール】

- 1988年 鹿児島県生まれ
- 2008年 第91回佐賀美術協会展 奨励賞  
「アートコンプレックス佐賀」参加
- 2009年 第92回佐賀美術協会展 緒方敏雄賞
- 2010年 第40回日本彫刻会展 入選  
第93回佐賀美術協会展 緒方敏雄賞
- 2011年 第41回日本彫刻会展 入選  
第94回佐賀美術協会展 佐賀県知事賞
- 2012年 第42回日本彫刻会展 入選  
第95回佐賀美術協会展 鍋島報効会賞

【作者コメント】

今回の作品ではバレリーナのしなやかに立つ姿を表現しました。

また、バレリーナが舞台へと向かう瞬間の不安や悩みが変わっていく様子を思い浮かべながら制作しました。

